

9月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値^(※)の動き

28年9月のDIは、8指標中3指標が上昇。4指標が下落となった。特に「売上高」「収益状況」は2桁の下落。「雇用人員」は横這いであった。

2. 県内中小企業の景気の現状

秋需期に入り一部の業種において、前月の猛暑による需要低迷から脱却する方向へと進みつつある。また、原材料価格及び原油価格が安定的に推移していることにより、企業収益の先行きに明るさが見えてきた。

しかし、商店街、共同店舗の今月の報告からは秋の商戦期であるが、引合いの減少や台風、長雨による影響で売上高の伸び悩み、また新規店舗の誘致が進まない現状に頭を抱えているといった声が寄せられた。

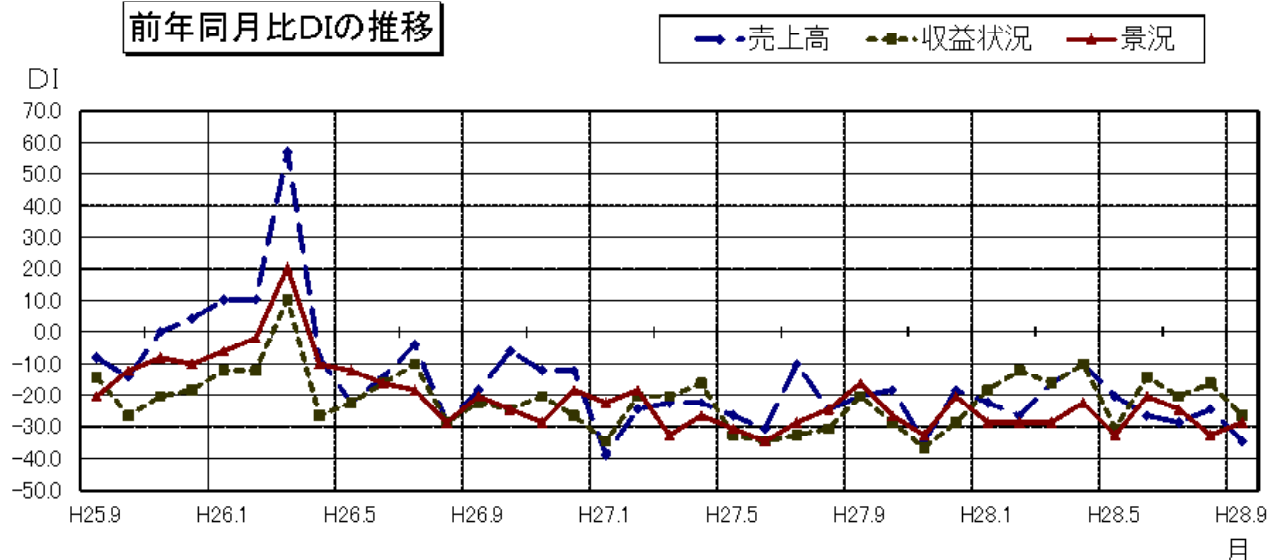
依然として外需不振による国内経済への下押し圧力や労働力人口の確保などが不安視されていることから、県内中小企業では先行きの見えない不透明感が漂っている。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H27 9月	10月	11月	12月	H28 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	増減
景況	-16.3	-26.5	-32.7	-20.4	-28.6	-28.6	-28.6	-22.4	-32.7	-20.4	-24.5	-32.7	-28.6	4.1
売上高	-20.4	-18.4	-34.7	-18.4	-22.4	-26.5	-16.3	-10.2	-20.4	-26.5	-28.6	-24.5	-34.7	-10.2
収益状況	-20.4	-28.6	-36.7	-28.6	-18.4	-12.2	-16.3	-10.2	-30.6	-14.3	-20.4	-16.3	-26.5	-10.2
販売価格	2.0	0.0	-2.0	4.1	0.0	4.1	8.2	4.1	-10.2	-10.2	2.0	-8.2	-6.1	2.1
取引条件	2.0	-2.0	-6.1	-2.0	-2.0	-8.2	-10.2	-6.1	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	-8.2	-2.1
資金繰り	-14.3	-10.2	-18.4	-8.2	-22.4	-12.2	-12.2	-8.2	-6.1	-10.2	-10.2	-10.2	-14.3	-4.1
設備操業度	0.0	-11.1	-16.7	-11.1	-22.2	-27.8	-27.8	-22.2	-33.3	-11.1	-38.9	-33.3	-22.2	11.1
雇用人員	-14.3	-12.2	-12.2	-14.3	-16.3	-22.4	-24.5	-24.5	-18.4	-20.4	-22.4	-16.3	-16.3	0.0

※DI値…好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

前年同月比DIの推移



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌

2ヶ月ぶりに味噌の生産量、出荷量は前年同月並みを確保することができた。猛暑による一時的な落ち込みをリカバーした。主原料の外国産米の輸入価格は落ち着いており、安定的に推移している。「御膳みそ」の味噌全体に占める割合は、生産量35%、出荷量35.6%となっている。

2. 菓子

今年は猛暑と台風の影響で売上は低迷しているが、イベントが活発に行われているので、県外からのお客様や催事向けのお菓子の売上が伸びている。今秋多くのイベントが実施されるようで、売上貢献に期待している。来年も猛暑が続くようであれば、冷菓の開発も必要になってくる。消費者の期待するお菓子の開発により、売上維持を図りたい。

<木材・木製品>

3. 木材

長雨の影響で原木丸太が供給不足であり、価格も横這いである。秋需期に入り、売上も改善されつつあるが、前年と比較すると新設住宅需要低迷で減益となっており、厳しい状況は変わっていない。

4. 木材

木材業界だけに限らず、住宅産業は大変厳しい状態にある。仕事数も非常に少なくなっており、業況は悪化した。

5. 製材

一進一退の状況で先行きが不透明である。

<印刷>

6. 印刷

9月も8月に引き続き休みが多く、稼働日数の少ない月であった。受注量の減少に輪をかけるように定期刊行物の減少も目立ってきている。官公庁の見積もり合わせについての価格低下は、一層の厳しさを増していく事が懸念される。更に厳しくなっていく経営環境への対応と改善への取り組みが求められる。

7. 印刷

前年同月比では、全般的に横這いである。例年9月半ば以降動きが活発になるのだが、今年はまだもうひとつ盛り上がりを感じにくい。

<窯業・土石製品>

8. 生コン

9月も対前年同月比、出荷量は減少した。今年度は生コンを使用する工事が少なく、依然として低迷が続いている。

<鉄鋼・金属>

9. 鉄鋼

業況は弱含みの状況であり、売上高及び引合いの減少も見受けられる。依然として景況感改善の動きが見られず、経済の好循環に向けた早急な対応が期待される。

10. ステンレス

あまり動きのない状況が続いている。為替相場も含めた海外情勢の不安定な状況が重なり、全体として良い材料のない先行き不透明な状況である。

<一般機器>

11. 機械金属

売上高や収益状況の改善に繋がる大きな変化はみられない。中国経済の衰退や円相場・株価の乱降下に伴う国内経済への影響など景気への先行き不透明感が依然として強い。また、雇用情勢の回復による中小企業への人手不足が懸念される。

【非製造業】

<卸売業>

12. 食糧卸

売上高不変。収益状況不変。台風や長雨などの天候不良の影響で、作物等の不作が懸念される。

<小売業>

13. 繊維卸

売上高減少。収益状況不変。成長の要因が見いだせない中、各業界は低価格志向や値下げにて売上を保とうとしているように見える。

14. ショッピングセンター

昨対比はスーパー97%（食品97%、衣料95%）、専門店95%であった。店舗全体では昨対比96%という結果であった。専門店では食料品店と飲食店が好調な様子であるが、衣料品、住居関連、装身具や文房具などの身の回り品の店舗は売上に苦戦をしている。また、新規店舗の誘致がなかなか進まないのが現状である。

15. プロパンガス

団地の集合装置及び供給管、ガス栓の検査を実施した。今後保安の徹底に取り組み、売上高増加に繋げていきたい。

16. 石油

長雨等の天候不良により、いまひとつ売上が上がらなかった。

17. 電気機器

エアコン等季節商品終了後は、全般的に売上は低調。10月にイベントを開催するので、今後の販売促進策を打ち出していく必要がある。

18. 畳小売業

9月は長雨、台風、高湿度の影響で、畳にカビが発生した家庭が多く見受けられた。仕事は天候不良により順延ばかりであったので、10月は晴天に期待したい。

<商店街>

19. 徳島市

9月も猛暑が厳しく客足は鈍かった為、秋の商戦期は苦戦。また、台風による影響で臨時休業となった専門店街もあり、売上高増加には繋がらなかった。

20. 徳島市

テナントのあるビルオーナーが変わったので、今後の商店街の売上高増加に期待を寄せたい。

2 1. 阿南市

イベントを開催したが、消費は鈍い傾向にある。

<サービス業>

2 2. 土木建築業

新直轄工区は主工事が移行し、南（阿南道路・牟岐道路・福井道路）の工事が進み始めた。業務量は落ち着いており、業況も不変であった。今年度より、雇用人員を増加させたが、補助要員は確保されていない為、早急に雇用の必要がある。

2 3. 自動車整備

平成28年9月の登録車の新車登録は対前年比-4.0%、中古車は+15.4%、合計では-0.4%と微減。軽自動車の新車登録は対前年比-12.8%、中古車-1.6%、合計では-10.4%。

登録車・軽自動車の登録合計は対前年比-5.1%と減少。売上高に関しては、軽自動車の新車販売台数が対前年比12.8%の減少となり、厳しい状況が続いている。車検や点検整備などの収益状況は僅かに好転しているものの、ほぼ例年並みである。

2 4. 旅行業

売上高は増加したが、業況に大きな変化はなかった。

<建設業>

2 5. 建設業

公共工事の発注の遅れにより、受注工事が少ない。

2 6. 鉄骨・鉄筋工事業

対前月比変わりなく推移している。

2 7. 板金工事業

仕事量は順調に推移しており、売上高も増加した。

2 8. 電気工事業

新設住宅口数は、285件（対前年比132.5%）と大幅に増加したが、業況は不変であった。

<運輸業>

2 9. 貨物運送業

一般貨物輸送は、飲料品関係は天候不良及び季節的に低下傾向であった。その反面、冬季季節商品（うどん・ラーメン等）関係は増加傾向となっている。全般的に輸送量は昨年度より低調である。軽油価格が横這いなのがせめてもの救いである。

3 0. 貨物運送業

燃料価格はここ数ヶ月、上昇傾向にある。青果では、台風の影響により収穫量が減少。また作付けの遅れによる今後の収穫への影響が懸念される。